

第13回遠野市史編さん委員会 会議録

日 時	令和3年5月26日（水）13：25～15：00
場 所	遠野市立図書館 視聴覚ホール
出席委員数	9人中9人出席
出席委員	荒田昌典、岩崎真幸、大橋進、兼平賢治（リモート）、熊谷常正、 今野日出晴、斉藤利男、菅原伴耕、藤田俊雄
事務局	石田久男 多文化共生・本の森特命担当部長 宮田秀一 市史編さん室長 前川さおり 市史編さん室次長 小島芳枝 市史編さん室主任 阿部信代 〃 菅原聡 〃

開会に先立ち委員に辞令を交付。

（進行：宮田室長）

1 開会

2 挨拶（石田部長）

3 委員長、副委員長選任

- ・委員長に大橋進委員、副委員長に藤田俊雄委員が選任された。

4 報告（進行：大橋委員長）

(1) 令和2年度事業報告

- ・ 民俗編に資料編的なものは必要ないか。
⇒ 通常、特別編のような形で1冊で構成される。資料の位置づけを一緒にしてしまおうほうがやりやすいが、まとまった文献資料が出てきた場合は、叢書の形で載せるのがよい。

(2) 事業の進捗状況令和3年度経過報告

質疑なし

(3) 近現代部会の委員について

- ・ 近世と兼任の委員がいるので、時代区分の境は調整しやすい。
- ・ 『遠野物語』の扱いをどうするかという議論があり、そのあたりに強い人員を補強したい。

5 協議

(1) 令和3年度事業計画案について

- ・ 考古グループは、資料編に掲載する遺跡のノミネートが終わり、執筆段階に入りつつある。遺跡の空撮については、吟味する必要がある。

- ・ 中世グループも、それぞれ執筆している段階。少し内容を変え、寺社資料を多く入れたい。また、マイリノホトケなど中世の実物は、写真付きで載せたい。
- ・ 近世は、資料編のイメージ共有を図り、資料収集をしている。盛岡藩日記『雑書』の遠野に関わるデータベースを作ってもらった。重要な資料の活字化も進んでいる。町方のいい資料も出てきたので、収録していきたい。
- ・ 近世は、平成元年に立ち上がったものの、これまで会議が三回。市外の委員が多いので、フィールドワークで地域を歩けていないことが気になり。
- ・ 県史や市町村史の近世編で、支配者側の資料はあるが民衆の資料が載っていないことが結構ある。地域の技術者集団など、民衆の資料をぜひ入れてほしい。
- ・ 近現代は調査を始めたばかり。共同のフィールドワークと、個別の資料調査を組み合わせて進めていきたい。今回は、おおよその編目構成と担当を決めるが、足りない領域について、委員を補充したい。新聞記事など、資料が多いゆえに、どういう視点をもって資料を採用するかが問われる。
- ・ 民俗も資料が無限にあるので、どのような視点で全体を把握するかがポイント。「内と外」など、キーワードを設定して調査したい。聞き書きだけでなく、文献資料も必要で、近現代と一緒に地区集会所の資料などを探していきたい。
- ・ 民俗は、近世後期から近現代の通史とも関わりがある。市民レベルの暮らしがわかる資料が民俗にも役立つので、情報提供をお願いしたい。
- ・ 事務局には、収集した資料のデータ管理を今からしっかりやっていただきたい。収集、保管、活用の観点から、市史で使った資料が後々にも分かるように、市として組織的に考えてやってほしい。
- ・ 市史叢書は現在、「御用留書」の枠組みでやっているが、民俗や近現代資料など、市史全体で考えられるものになるのか。
⇒ 予算的なこともあり、具体的なものが出てきたときに、編さん委員会で出していきたい、次年度予算化するよう要望するような形で。
- ・ 人材育成の講座や広報活動は、フィールドワークで、知られていない昔の遺跡、景観を知ってもらうようにできないか。博物館事業とタイアップさせては。
- ・ 市民にどれだけ関心を持ってもらうかが大事。外の人が知っていて中の人知らないこともあるので、フィールドワークで現地を見直すことは重要。
⇒ 新たな人材発掘も課題であり、今後の講座で考えたい。
- ・ 広報活動は、やっていることだけでなく、今どういう資料を求めているかということも積極的に発信したほうがよい。

(2) 「近現代」資料編の刊行計画の変更について

提案どおり、「近現代」資料編の刊行年を令和7年度に変更することで決定。

(3) その他

特になし

6 閉会